

おくたま 町議会だより



154号

平成 22 年 8 月 5 日
発行 奥多摩町議会
電話 (0428)83-2111

第2回定例町議会

議員定数2名減を可決

第2回定例会は、6月8日から6月11日までの、会期4日間にわたり開催され、議員提出議案第4号「奥多摩町議会議員定数条例」が賛成多数（反対・島崎議員）により可決されたため、次の町議会議員選挙から、議員定数が2名減の12名として行われることとなりました。

なお、議員提出議案第4号の可決に伴い、定数改定後はさらなる改定は行わない等、4項目について決議する、議員提出議案第5号「同条例に関する*附帯決議」が全員の賛成により可決されました。

*附帯決議

法律上のものではなく、付随的につけられた意見又は要望の決議であり、道義的なものであって、条例や規則のように拘束性はありません。

町長提出議案と結果

次の議案が提出され、いずれも全員の賛成により原案のとおり可決、承認されました。

条 例 等

議案第51号

職員の勤務時間、休日、休暇等に関する条例の一部を改正する条例

議案第52号

一般職の職員の育児休業等に関する条例の一部を改正する条例

専 決 処 分

議案第44号

平成21年度一般会計補正予算（第5号）

議案第45号

平成21年度国民健康保険特別会計補正予算（第4号）

議案第46号

平成21年度下水道事業特別

会計補正予算（第3号）
議案第47号

町税賦課徴収条例の一部を改正する条例

議案第48号

国民健康保険税条例の一部を改正する条例

議案第49号

奥多摩処理区下水道管渠建設工事その9請負変更契約の変更について

議案第50号

奥多摩処理区下水道管渠建設工事その10請負変更契約の変更について

工 事 契 約

議案第54号

奥多摩処理区下水道管渠建設工事その12請負契約について

議案第55号

奥多摩処理区下水道管渠建設工事その13請負契約について

議案第56号

奥多摩処理区下水道管渠建設

工事その14請負契約について

人 事

議案第53号

固定資産評価審査委員会委員
委員の清水村司氏の任期満了
に伴い、同氏を選任することに
全員が同意しました。

・清水村司氏(再任)
(奥多摩町小丹波231番地)

陳情の取り扱い

趣旨採択としたもの

選択的夫婦別姓制度の法制化
に反対する意見書の提出に関
する陳情書

子ども手当の廃止を求める意
見書の提出に関する陳情書
人権侵害救済法の成立に反対
する意見書の提出に関する陳
情書

一般質問

22年6月議会では、11日
の2日目に6名の議員が質
問を行いました。(通告順)

竹内和男議員

奥多摩町の森林施策や木材利用
推進について

.....
(答) 公共建築物への木材利用
は、既に積極的に取り組んでい
るところではあるが、今後は木
質バイオマス活用計画を策定
し、引き続き木材の利用促進に
取り組んでいきたい

竹内 国では、公共建築物等
における木材の利用の推進に関
する法律を、この5月に成立させ
る等、森林、林業の再生や国産
材の活用、利用推進に取り組ん
でいる。また、檜原村において
も、地場産材の利用について補

助を行っているが、町として具
体的な木材利用計画や森林施策
はあるのか

町長 福祉会館や学校給食セン
ター、海沢若者住宅の建設等、
公共建築物への木材利用につ
いて、既に積極的に取り組んでい
るところではあるが、今後国
や都の制度を取り入れ木材利用
を推進していく。森林再生事業
や花粉症対策事業等は、東京都
に予算の確保をお願いし事業を
継続していく。また、間伐事業
で伐採した木材の利用について
は、早急に考えていかなければ
ならない問題であるが、近年木
質バイオマスを利用したストー
ブ等が一般家庭にも普及してき
ており、町でも奥多摩温泉もえ
ぎの湯の灯油ボイラーに換え、
木質バイオマスボイラーへの更
新を検討しているとともに、木
質バイオマス活用計画を策定
する予定で作業を進めていると
ころである。

木材の利用を促進するために
は、搬出にかかる経費削減や搬

出方法等も研究していかなけれ
ばならない問題であり、引き続
き木材の利用促進に取り組み、
新たな木質資源の活用方法を構
築する等、今後も森林整備事業
を推進していく。

師岡伸公議員

奥多摩湖湖面利用の今後につ
いて

.....
(答) 船舶の導入は現時点では
困難である。ワカサギの増殖に
ついては順調に行われているが、
観光振興が図れるよう今後も東
京都に要望を続けていく

師岡 ソーラーボート等を利用
して、都内の児童、生徒の水
源環境教育を推進できないか
ワカサギ増殖による冬の観光
活性化について、東京都予算の
状況、棧橋や護岸、孵化場の環
境整備、ブラックバス、川鵜対
策は

町長 水質汚染が心配のない船舶であっても、水の供給を受けている他県に対する説明が難しいという理由から、現時点では困難であるとの見解が東京都から示されている。観光用船舶の導入は、今後の時代の変化や観光ニーズの変化をとらえ、引き続き要望していきたい。水源環境教育については、NPO法人「奥多摩力ヌーセンター」が、白丸湖で実施している力ヌー教室等を通じて普及していきたいと考えている。

奥多摩湖の孵化施設では、毎年都水道局分が5千万粒、奥多摩湖愛護会分が300万粒孵化され、放流されている。日本釣振興会と西多摩釣具商組合も、別施設にて2千万粒の孵化、放流を行っている。

湖面の水位変化や水質の保全等から、棧橋の設置や釣り用の護岸整備は難しい状況となっているが、都水道局に峰谷川の堆積土砂のしゅんせつを実施していただいたので、今期は孵化施設から順調に放流できた。

ブラックバスについては取り尽くすしか方法はなく、川鶉は適切な対策がないとのことである。今後は都の関係部に有効な対策を研究していただき、観光振興が図れるよう引き続き要望していく。

防災無線による児童生徒の安全対策について

（答）下校時間が異なることから、非常に難しいと考えられる。登下校の見守りについて、定期的に放送しお願いしていく

師岡 下校時刻に合わせ、児童生徒が下校するお知らせを防災無線で地域住民に流し、さらなる安全確保に努められないか

教育長 小学校では低学年・高学年、あるいは曜日によって下校時間が異なること、加えて低学年の児童は約80%が学童クラブに加入していること、中学校ではクラブ活動により下校時間が異なること、等を考えると、

下校時間に合わせたの防災行政無線放送は非常に難しいと考えられる。しかし安全対策という点で、学校だよりを通して、地域の方がたに教育課程で定めた下校時間をお知らせするとともに、防災行政無線放送でも定期的に登下校の見守りについて、ご協力をお願いする等の対策をとっていく。

酒井正利議員

自主防災組織について

（答）自主防災組織は、地域住民が自主的な防災活動を行う組織であり、自治会を中心として組織されている。全自治会に組織をお願いしていく

酒井 当町の自主防災組織はどんな組織で、いつ始まり、現在何箇所まで組織されているか
それぞれの組織の仕組みや形態は 組織の活動状況は 町の今後の指導方針は

町長 自主防災組織は、地域住民が自主的な防災活動を行うことにより、災害予防及び地震、そのほか災害発生時に自主的に救出、救護、避難誘導、給食給水、及び情報の管理を行い、被害の拡大防止を目的に組織されている。当町では平成5年ころから組織が始まり、現在7自治会で組織、活動されている。

自治会により若干異なるが、自治会長、自治会役員を中心に、消防、警察と連携した体制づくりが主となっている。

平常時には町総合防災訓練への参加、及び防災資機材の備蓄、管理を実施しているほか、保育園や老人ホームと相互応援協定を締結する等、その活動を広げている。

今後も総合防災訓練を実施するとともに、自治会を中心とした地域の防災力向上に向け情報提供を行い、自治会と協力しながら体系づくりをしていきたいと考えている。

島崎利雄議員

各地域などの現状と今後の対応について

（答）指定管理者へは今後でもできる限り支援をしていく。町有地については、有効活用に向け今後も検討していきたい

島崎 指定管理者制度の実績と今後の対応は 小河内小・中学校校舎跡地と「東芝保養所」の検討、活用は 川野地域のゲートボール場、テニスコートの活用状況は 棚沢地域の土地買収地の活用計画は

町長 現在21の町営施設を、15の民間団体に管理運営をお願いしている。民間手法による自由な発想と競争原理に基づき、安価で質の高いサービスが提供できるよう期待しており、町としても、今後できる限りの支援をしていく。

現在、庁内で構成するプロジ

エクトチームにより、現地調査も含め活用方法を検討しているところではあるが、公共的な活用、地元小河内地域の振興、投資的効果等を含め、今後も検討していきたいと考えている。

町が設置する広場はスポーツばかりでなく、災害時には避難場所になる等、様々な役割を担っており、利用頻度が少ないという理由で広場を廃止したり、他の目的に転用する考えはない。また、今後の広場等の維持管理は地域の皆様で管理していただくよう、ご理解とご協力をお願いしたい。

昨年購入した土地は、鳩の巣駅直下という利便性もあり、国道411号線の拡幅工事も予定されているところから、その後は地元のご理解もいただきながら、若者の定住化に向けた住宅の整備等に活用したいと考えている。

過疎対策について

（答）今後の計画を「市町村計画」として9月定例会に上程す

る予定だが、引き続き将来にわたつての町づくりを行っていく考えである

島崎 過疎法の改正でソフト事業の拡充がされたが、町の活性化に向けた取り組みを 交通、通信体系の整備を一人暮らしのお年寄りの見守りの構築を

町長 過疎地域自立促進特別措置法により過疎地域の指定を受けた市町村は、計画する各種事業を「市町村計画」として策定し、議会の議決を経て国に提出し認定されることになり、9月定例会に上程を予定しているが、引き続き住民の生活基盤の整備として、町道等の新設及び改良、公共下水道等の整備促進、過疎対策として過疎バス路線の維持、若者の定住化と子育て支援の充実、通信手段として防災行政無線のさらなる充実、個性豊かな地域づくりとして森林セラピー事業の推進等、将来にわたつての町づくりを行って

いく考えである。

現時点において、当町で見守りの必要な世帯は124世帯となっており、緊急事態を直接消防署に知らせる「緊急通報システム」、「火災安全システム」を設置しているが、近所に居住する149世帯に「見守り協力員」になつていただいているので、今後も機械的システム、人的システムの両輪で対応していきたいと考えている。

増田ひさ子議員

ボランテア活動に「ポイント制度」の導入を

（答）ポイントの制度についてはクリアすべき点が多々あり、今後の研究課題とさせていただきます

増田 ボランテア活動が活発になれば、「元気な町・奥多摩」も夢ではない。町内のすべてのボランテア活動にポイント制

度を導入し、町の施設に利用できるようにする考えはないか

原島伸行議員

町長 当町では自治会活動を始めとする、住民による自主的活動が活発に行われていることから、ボランティア活動の対象範囲をどこまでとするか、活動実績の把握と評価ポイントの付与、その還元方法、さらに活動を支える組織、人材の確保等につき関係団体、部署との調整や検討も必要であることから、今後の研究課題とさせていただきます。今後高齢化がいつそう進行すると予測されるなかで、第四期長期総合計画に沿って、住民の皆様との協働により「生涯を健康で楽しく豊かにさせようあつまちづくり」を推進するためには、各種ボランティア活動はますます重要となり、大人から子どもまでボランティアの輪が広がり、総合的なボランティア活動が一層活発になるよう、さらなる推進に努めていく。

槐木(さいかちぎ)林道について

(答) 現在は緊急車両以外の通行を制限している。今後、斜面の安全工事、舗装工事、植栽等を順次行っていく

原島 総延長と工事費について 完了し、開設と安全面での防護柵について 舗装・植栽について 残土捨場(現状では満杯のようだが)について

町長 平成12年度から21年度までの10か年で延長工事を実施した。延長は552メートル、幅員は4メートルである。全体の工事費は1億4千586万1千円である。

山側で少量の崩壊が発生する可能性があり、現在緊急車両以外の通行を制限している。平成23年度に斜面の安全工事を行う予定で、ガードレールは既に全線に設置されている。

路面が安定していないことから、平成24年度に測量設計を予定し、25年度から2か年計画で全線舗装を計画している。植栽は残土処分場の埋め立て完成後に、斜面や林道沿いに300本程度計画している。

全体で3万1千立方メートルの埋め立てが可能で、現時点で1万3千立方メートルの余裕がある。平成23年度末に埋め立て完了を予定している。

新たな観光戦略の展開推進を

(答) 施設整備は進めていくが、一定の時間は必要である。フィルムコミッション事業は、広域化も含め研究させていただきたい。ご当地ソングに対しては、町としての支援は行っていききたい

原島 むかし道ハイキングコースに東屋の休み処について 観光資源を活用したフィルムコミッションと、ご当地ソングについて

町長 現在は槐木と水根に設置されており、今後も東屋やベンチの設置を行っていくが、所有者との交渉等に一定の時間が必要と考えられる。

多摩地域は口ケ地としての需要が高まっており、特に西多摩地域は制作サイドの要望に応えやすい環境を備えていると考えられる。しかし、フィルムコミッションの業務内容は幅広く、町単独で事業を行うことは困難であり、西多摩地域がひとつのフィルムコミッションとなることも考えられ、今後研究していきたい。

ご当地ソングは行政が積極的に推進するというよりも、住民皆様の機運の高まりとともに、作詞家、作曲家、歌手の三者が揃うことにより曲が完成し、広まっていくことが望ましいと考えているが、町としての支援は行っていききたい。

議会日誌

4日 正副消防団長OB会定期総会

8日 第2回定例会（第1日）

各常任委員会

11日 第2回定例会（第2日）

13日 消防団ふれあいまつり

14日 青梅警察懇話会定期懇親会

14日～15日

会派視察研修（新潟県上越市・奥多摩の未来を創る会・ふるさと未来・暁会・風・日本共産党）

17日 全国森林環境税創設要請活動

三か町村結婚問題検討部会

19日 三か町村お見合い交流会

21日～23日

会派視察研修（青森県鶴田町・奥多摩の未来を創る会・新政法）

25日 消防業務連絡会

26日 郷土芸能保存団体協議会定期総会

28日～29日 東京都町村議会議長会行政視察（熊本県南阿蘇村）

29日 三か町村お見合い交流会反省会

31日 三か町村結婚問題検討部会

6月

1日 議会運営委員会

4日 福生市市制施行40周年記念式典

8日 民生委員推薦会

7月

4日 福生市市制施行40周年記念式典

8日 民生委員推薦会

15日 三水協第2正副委員長会議

15日～16日

全国森林環境税創設促進議員連盟役員会・定期総会（和歌山県田辺市）

20日 町議会だより編集委員会

21日 奥多摩・檜原間林道鋸山線改修

22日～23日

西多摩郡町村議会議長会行政視察（北海道福島町）

27日 三水協第1委員会

28日 西多摩郡町村議会議員親睦会

29日 国民体育大会準備委員会総会

30日 国道139号松姫トンネル建設促進連絡協議会総会

公害対策審議会

平成22年第3回定例会

第3回定例会は、9月7日ころから予定しています。細かい日程は防災行政無線でお知らせします。

たくさんの方の傍聴をお待ちしています。

編集後記



今年の梅雨は活発な梅雨前線の影響で、各地に局地的な豪雨が降り、河川の氾濫・浸水・土砂崩れなどの被害が相次いで発生し、多数の死者・行方不明者が出る大きな災害となり、自然の猛威の恐ろしさを実感させられました。集中豪雨の被災者の皆様に心からお見舞いを申し上げます。また、一日も早い復興をお祈り致します。

7月11日に投票された第22回参議院議員選挙では、与党民主党が改選議席54議席を44議席に減らす大敗。連立を組む国民新党も議席ゼロに終わり、与党は参議院過半数を大きく割り込んだ。今回の参院選の結果は民主党の迷走とブレに、有権者が厳しい審判を突きつけたものだと思います。今後は菅首相の「ねじれ国会」での政権運営能力が問われるところで

（増田ひさ子）

竹内 和男 小澤 春義

鈴木 賢一 原島 伸行